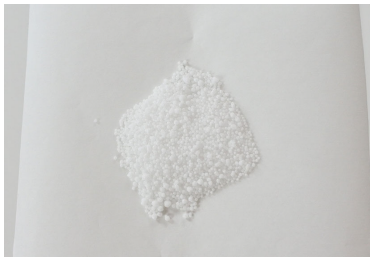


## 1 - 2 添加剤の種類

キャンドルを制作する時、加えると燃焼時間が延びたり表面がきれいに整えられるなど様々な役割を持つ添加剤があります。理想のキャンドルに近づけるためにどの添加材を加えたらいいのか、その割合と特徴を勉強します。

### ①ステアリン酸

- ・原材料・・・牛脂（動物性）
- ・融点・・・57℃
- ・引火点・・・200℃以上
- ・色・・・白色。溶けると透明
- ・価格・・・◎



### ◆特徴◆

パラフィンワックスに対し5%程度添加することで、気泡を除去してくれます。入れすぎると表面がざらつきますので、用途により使い分けます。また、気泡が除去されることで硬度も増し、型抜けも良くなることが特徴です。シリコンの型を使うときは腐食するため注意が必要です。

### memo

### ①バイパーワックス

- ・原材料・・・石油由来
- ・融点・・・64℃
- ・引火点・・・240℃以上
- ・色・・・白色。溶けると透明
- ・価格・・・◎



### ◆特徴◆

パラフィンワックスに対し1%程度添加することで、キャンドルの表面に艶がでるのが特徴です。気泡やひび割れも除去してくれます。また、香りを付ける際、香料の許容量を増やすので、香りの強いキャンドルを作りたい時におすすめの添加剤です。

但し、入れすぎると底面を中心に側面にも陥没ができるため配合量に注意が必要です。

空気に触れた表面が激しく波打つため、瓶などに注ぐ際に添加するのには向きません。

### ③マイクロソフトワックス

- ・原材料・・・石油由来
- ・融点・・・77℃
- ・引火点・・・250℃以上
- ・色・・・白色。溶けると透明
- ・価格・・・○



### ◆特徴◆

パラフィンに添加することで、ひび割れや気泡を軽減する役割がありますが、唯一単独で使用する事の多い添加材となります。

融点が高く、大きな塊のまま溶かすと鍋が高温となり煙が立つため、あらかじめ小さく割ったものを溶かすことが重要です。

粘度が高く、粘着力もあるため、手の熱で温めることで柔らかくなります。マイクロソフトワックスをシート状に加工し、カッティングや造形をしたものをキャンドルに貼り付けるなど、オリジナルデザインの幅を大きく広げることができます。